

マレーシア・コタキナバルの旅

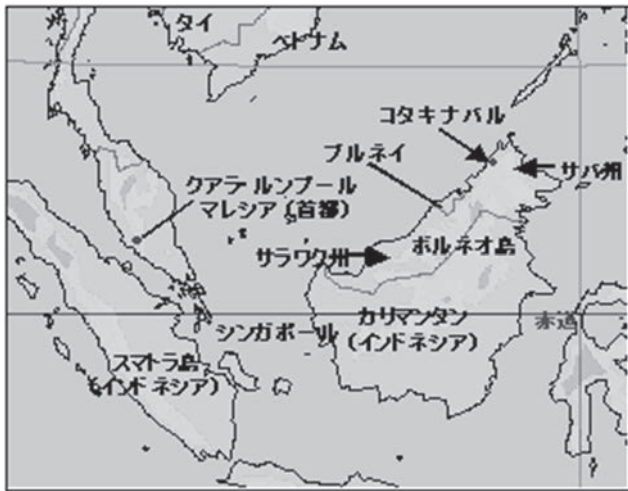
～コタキナバルの自然史、キナバル山の遠望～

神山清英（東京都新宿区）

WSCが長期間サポートしている日本語学校JCTICと交流し、現地の生徒さんと親しくなりました。もちろん、コタキナバルの観光も堪能しました。わけでも、キナバル公園の自然植物園、ホテル観賞やテングザル見物、そして自然のみのサビ島でのんびりとしました。

旅行期間中同一ホテルに5日間の連泊でしたので、実にゆったりと過ごすことができました。

ワールドステイクラブらしく規律と品位をもち、一方では会員だけの団体であるので自由さと安心さを満喫し、国際交流や社会貢献が肩肘張らずにできました。



期間：2018年10月22日（月）～10月28日（日）

費用：基本23万円（航空機、宿泊、食事、入場料、チップ、その他諸費用）

オプション サビ島観光250リンギット、ホテルとテングザル鑑賞90USドル、ゴルフ1万円

食事：朝食は毎回ホテル、昼食と夕食は訪問地にて適宜あり、自己負担もあり（日程表に記載）

参加：13名 神山清英（理事長）、宝田正志、村上有三、磯崎晃、國分朋子、島田貢代、笹野實、笹野美代子、佐藤裕子、中条裕子、稲葉敬一、田辺年隆、佐竹勝年

リーダー：村上有三会員

ガイド：現地旅行社 BORNEO TRAILS TOURS & TRAVEL SDN BHD からの派遣 全行程同行 アジャさん（中年の恰幅のよい女性、イスラム教徒でスカーフ着用）

ビビアンさん（サポート 7歳の子どもがいる女性、キリスト教徒）

宿泊：コタキナバル SUTERA HARBOUR

航空機：マレーシア航空

往路 成田⇒コタキナバル直行便

機材 B737-800 168名乗小型機 3割搭乗

復路コタキナバル⇒クアラルンプール⇒成田

機材 A380-800 492名乗大型機 満席

移動と観光：専用小型バスとガイド案内

旅程と観光：

10/22（月）出発 成田⇒コタキナバル MH0081

宿泊 Pacific SUTERA Harbour Resort
以降連泊

コタキナバルはサバ州の首都人口80万人

10/23（火）観光 市内（モスク、州立博物館他）

訪問 JCTIC（第一回 表敬、授業参観他）

10/24（水）観光 オプション サビ島 250リンギット
（水泳、シュノーケル、ダイビング、カヤック、ボート、昼寝…昼食バーベキューバイキング）

ゴルフ1万円個人参加ホテルのコース

交流準備 JCTIC 交流パーティーの食材調達（女性会員が主）

訪問 JCTIC（第二回、授業参観、交流他）

10/25（木）観光 キナバル山遠望（専用バスで移動、見る方向でキナバル山の頂上の山容が変化するのを鑑賞 青空に映えて力強い 標高4,095mの隆起は威容あり）

キナバル公園リラックス（足湯を楽しむ、自然散策）

キナバル植物園（小さいかわいいラン20種鑑賞、直径2.5cmの黒いダンゴムシも見た）

キナバル公園つり橋渡り体験 希望者のみ（4連で1連の橋の踏み板25cm幅で長さが25米、両側には落下防止のネットあり）

10/26（金）自由行動 市内散策、観光、ショッピング

観光 オプションリバークルーズ（ホテルとテングザル鑑賞 専用バスも使用）

10/27（土）交流 JCTIC 生徒を招きマリナコート開催

参加者約40名 WSCより贈呈品と食事提供セレモニー（理事長から岡村あや先生への訪問証贈呈式、お茶のお点前と生徒の体験、浴衣試着と記念撮影）

食事 カレーライス、おでん、巻きずし（かっぱ巻き、かんぴょう巻き、太巻き）、手巻きずし（生徒へ具の巻き方を指導）

帰国 コタキナバル空港⇒経由クアラルンプール空港⇒成田

10/28（日）帰国 成田空港にて解散



JCTIC 訪問証



キナバル山をバックに 全員集合

今回の旅で楽しかったイベント

1. WSC が長期間サポートしている日本語学校コタキナバルの「JCTIC」を訪問し、授業参観、特別授業、交流会を開催しました。訪問証贈呈とお茶のお点前（ティーセレモニー）を行い、心こもるたくさんのプレゼントを生徒さんへ贈呈。カレーライス、おでん、巻きずしの日本食を生徒さんと食し、交流しました。
2. コタキナバルのリゾートタイプホテルに連泊し、リゾート気分を満喫しました。
3. いろいろな観光を楽しみました。市内観光でのモスク見学や博物館での勉強、サビ島での水泳やシュノーケルの体験、キナバル公園での温泉とつり橋体験、キナバル植物園でのランの鑑賞、リバークルーズでホテルとテングザル鑑賞、ゴルフ三昧も味わいました。

JCTIC との交流会

表敬訪問と授業参観、さらに交流会を生徒さん 40 名と 2 時間のプログラムで行いました。交流会での食材調達には、宗教上からの制限があることを考慮しました。そのため、現地の食材から選択に一日かかりました。

- ・表敬訪問 10/23（火）夕刻 JCTIC
岡村先生に手土産を手渡し

- ・参観 10/23（火）夕刻 岡村先生授業 生徒は社会人
佐藤先生授業 生徒は高校生
- 10/24（水）夕刻 青島先生授業 生徒は社会人
- ・交流会 10/27（土）午後 2 時間 マリーナコート C 棟 10F
訪問証贈呈式 神山理事長から岡村先生へ
お茶のお点前 中条会員が先生、生徒さんへ



数名の生徒さんが、お茶たて体験に参加。お菓子は、定番の最中。

- ・浴衣体験 島田会員が持参した浴衣を、生徒さんに着付しました。大喜びで写真撮影を楽しみました。
- ・交流会の食事 手巻き寿司、太巻きずし、細巻きずし、おでん（大根、こんにゃく、卵）、カレーライス（宗教上の制限で一工夫）
- ・プレゼント 参加会員から JCTIC の生徒さんへ



消せるマーカーペン、アニメファイル、ふでばこ、浴衣と帯（男物、女物）などなど 大好評でした。

ホテル Pacific SUTERA Harbour Resort

大規模ホテルで、ヨットハーバーがあり、庭には水泳プールやレストラン、庭園とすべてそろってました。

連泊でしたので、ここのホテルの朝食を堪能しました。バイキング形式で、洋食はもちろん、中華風の麺までありました。キムチ系の食事のコーナーもありました。コーヒーメーカーが不調なのが、ご愛敬でした。



サバ州立博物館 コタキナバル市内

サバ州の伝統的な民族衣装や壺、スズ製品など伝統工芸品、生活様式の説明などが展示されてました。マレーシアは多民族から成る国で、各民族の固有の衣装をまとったモデルがありました。衣装固有の色の取り合わせもさることながら、各民族の固有の模様が布地に



表現されていてそれが多種あるのには感銘しました。

ジャングルに棲む動物のマレー虎などはく製があり、入口にはクジラの骨の展示がありました。現地のガイドさんからは、クジラは食さないとのことでした。

サバ州立モスク

サバ州最大のモスクとして、1977年に完成したそうです。アラブ・イスラムの伝統様式を受け継いでいます。建築は、現代的な方法で施工されています。ドームの礼拝堂は、黄金に美しく輝いていました。



ブルーモスク

落ち着いた雰囲気がありました。入場フィーがあるので、外側から拝見しました。

ゴルフ三昧



ホテルに隣接してコースがありました。熱心な2名の方が、日本より道具一式を持参して、早朝よりお楽しみでした。芝はねっとりタイプで、転がらず！でした。難コース?のため、スコアは安心の百台です。

このホテルでは、ゴルフも目玉商品です。マレーシア航空では、手荷物は2個OKでしたが、1個はゴルフバッグを想定しているようです。

サビ島レジャー

水泳、シュノーケル、スキューバダイビング、2人乗りカヤック50リングット/1時間の島を、のんびり時間を満喫しました。海には、熱帯魚をはじめ、カマスや珊瑚が観賞でき、楽しめました。が、島にも?猿がいて、驚きました。水に縁のある方、のんびりしたい方7名が参加でした。



宿泊のホテルは海に面し、そこがボート乗り場になっています。ここから快速モーターボートで

15分、波をけたてて沖合のサビ島に到着しました。

島には、ちいさな砂浜と海水浴場がありました。水泳、シュノーケルもダイビングもカヤックもこの砂浜が発進基地です。到着すると早速、お好みのレジャーに取り組みました。カヤックは透明のボートで、海中がよく見えるようになっていましたが、お魚は・・・でした。ダイビングでは予想通り熱帯魚に囲まれたとか・・・

キナバル公園

この公園は、シンガポールの国土が入ってしまうほどの広さです。キナバル山と麓を含めた公園は、熱帯雨林から森林限界までのさまざまな種類の森からなっています。ポーリンエリアでは、ジャングルのつり橋、キャノピーウオークを体験でき、さらに温泉体験もできます。

ポーリン温泉

足湯、水着着用温泉、裸入温泉などがすべてそろっていました。時間がなく、日本式の裸入温泉は堪能できませんでした。残念。



キナバル植物園

木々や草木は、熱帯の植生そのものでした。それに加えて、キノコあり、20種くらいのランもみることができました。ランは小ぶりのかわいいものでした。

一方、食虫植物のウツボカズラは直径15cmほどもあり、大きなものでした。



キナバル公園のつり橋

4連に分かれたつり橋で、合計100mの長さがありました。揺れる橋の木の踏み板は25cmの狭さで、手すりになるロープを真剣につかみなが、渡りを堪能しました。安全ネットがあるものの、揺れると少々気が動転し、下を見るとますますへっぴり腰になります。仲間みんなが見ている手前、弱音を見せないようさりげなく真剣に歩き、渡り切ったとたん安堵の顔つきになっていました。



キナバル山展望



キナバル山は、ユネスコの世界遺産に登録されています。専用バスでキナバル公園へ向かう途中の道路で、展望をしました。山頂に雲がたなびき、バスの進行につれ山頂の様子が変貌するのを楽しみました。人が寝そべった時の顔のようにも見える角度があり、造山活動による岩塊の複雑な形状でした。

途中にはマーケットもあり、お土産品になるドライフルーツなどを、各自購入しました。ここでのガイドさんのおすすめは、香り米でした。黒、紫、赤と色とりどりの米で、それぞれ小袋に詰めての販売でした。



市内ショッピング

コタキナバル市内には、新しいショッピングセンターがつつぎとオープンしているようです。ダイソー、DIY、コンビニのお手頃なお店があり、ヨーロッパの一流ブランド店が覇を競っていました。

長期滞在者用に便利な、大規模スーパーマーケットもありました。カード決済が可能で、手持ち現地通貨の心配をせずに済むことにはホットします。もちろん、こういうショッピングセンターには両替所があり、日本円を現地通貨リングギットにすぐに交換してくれます。1 リングギットが 30 円位ですので、両替所で必要の都度千円程度を現地通貨に両替しました。



市内の食事処

海鮮主体の中華系料理、カレー味のマレー料理、イスラム教徒には具合が悪い豚肉のある中華料理、KFC、MAC、PizzaHat、寿司店、ラーメン店などなど、食事には困ることはありませんでした。



マレー料理

キナバル公園観光の昼食として出ました。お芋を粉にして丸めたものが、大きな葉につつまれていて、これが主食です。おかずは、辛みのある料理でした。



ビール



輸入品のカールスバーグ、どの店にもあった上海タイガービール、そして地元のビールとそろっていました。お値段は、コンビニでは7リングギット (200 円) 位でした。

コタキナバル市の住民のうち、イスラム教徒は6割と聞いていたのでアルコールは不自由かなと恐れていましたが、杞憂に終わりました。

リバーサファリとホテルウオッチング

リバークルーズ、手乗りホテル、樹上テングザルなど、マングローブの川を下りながらの川沿いの森に棲む動物たちを探すジャングルクルーズです。テングザルを見ました、向こうもこちらを見ました、蛍も手にのせて見ることができました。



リーダーからの感想

村上有三 (東京都文京区)

昨年のネパール・ポカラの日本語学校訪問に続き、本年はマレーシア・コタキナバル校の訪問と現地観光の旅を企画し終了しました。春先より、コタキナバル提携校 JCTIC で何度も先生をしている青島さんから、現地校の訪問や交流会、また観光スケジュールについてアドバイスを頂きました。その情報に基づいて、日程を作成し応募者を募ったところ、会員 13 名が参加しました。

コタキナバルでは、JCTIC 岡村先生への表敬、学校の運営報告、意見交換など貴重な話を伺った後、授業参観をしました。最終日には、生徒、OB や OG との交流懇親パーティーを開いたところ、多くの参加があり楽しい時間を過ごしました。授業参観の折に、初級から上級までのクラスで、それぞれに応じて先生が生徒に対し丁寧にわかりやすく教えているのを目の当たりにしました。

教えることの難しさ、大変さを実感するとともに、この懇親パーティーに多くの方が集まった理由がわかり、納得しました。

観光は、二日目が市内観光、四日目がキナバル山とポーリン温泉の一日ツアーでした。富士山より高いキナバル山がくっきり見えたのは、感動ものでした。オプションツアーのジャングルクルーズと蛍鑑賞では、満天の星と蛍の対比が世のもの思えないとのことでした。10月は、雨季にあたり雨が多いとのことでしたが、今回雨により日程に支障をきたすことなく過ごせたことは、参加会員の日頃の行ないの良さの賜物と感謝です。

青島さんには、出発前のみならず現地でも大変なご尽力を頂き、感謝の言葉しか思い当たりません。パーティーの食材購入などでコタキナバル市内で買い物をし、準備に奔走頂いた女性参加会員の方にも感謝申し上げます。

今回の訪問で、WSCとJCTICの提携がより促進されたと確信し、今後もより協力できるように進められるのではないかと実感しました。

旅の感想

田辺年隆 (千葉県船橋市)

今回初めて、ワールドステイクラブでの海外旅行に参加しました。すでに顔見知りの方や初めて一緒する方と楽しい時間を過ごし、また興味ある企画旅行をリーダーに感謝する次第です。

当日の朝は、子供みたいに早く目が覚めて携行品を確認して、1番の電車？に乗り込み余裕を持って成田に到着したところ、理事長が先に来られていました。

初日は、ホテルでゆっくり休めてよかったです。食事は美味しく、海鮮料理をみんなでいただきました。2日目からはスケジュールがいっぱいで、JCTICの授業参観、観光やマリンアクティビティに精を出して参加しました。特に、久しぶりのカヤックでは、1時間だけでしたがとても楽しくすごしました。悔やむのは、笹野夫人が降りぎわにバランスを崩し海水に浸っちゃったことです。ごめんなさいね。



カヤックに乗る

帰国前日は、ホテルでのんびりと風に吹かれて眠ったりして休養出来ました。コタキナバルの自然遺産を体験したこと、日本語を学ぶ生徒さんと交流したこと、どちらも得難い経験でした。次回は、ゴルフも楽しくできそうです。クラブを担いで再び来たいと思います。

笹野美代子 (東京都調布市)

コタキナバルの旅では大変お世話になりまして有難う

ございました。二人とも翌日から元気に活動しております。東京の青い空を見上げながら、コタキナバルも毎日青空だったことを思い出しております。キナバル山の形がはっきりと観られたこと、帰りのバスから見た夕焼けの素晴らしさ。そしてホテルウオッチングで今まで見たことが無い大群衆のホテル、ひらひらと舞い降りてきて私の手の中でじっとおとなしくしていました。空には星が多数瞬きダイヤモンドの輝きのように感激しました。思い出多きコタキナバルの旅でした。

青島岑郎 (東京都目黒区)

この度はJCTICに格別のご配慮いただき熱く御礼申し上げます。最後のパーティーも生徒たちとても喜んでました。たくさんのお土産、特に浴衣はこれから希望者に配布しますが、とても喜ぶでしょう。

旅行参加者の皆さまにはイベントにご参加いただきまして生徒たちと交流したり、おいしいお料理をつくり、いただいたり、茶道のお点前をご披露していただき感謝しております。皆さまに参加していただき楽しいときを過ごせましたこと、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



JCTIC 参観

宝田正志 (静岡県静岡市)

コタキナバル旅行印象記
一週間の滞在で、しかもひとつの都市コタキナバルの訪問で、その国を語るのは至難でありおこがましくもあるだろう。ただ民族、宗教、文化が多様性に満ちながら表面上はうまく融合し秩序を維持しているのかなと思ったのが卒直な第一印象であった。

いずれも短時間ながら、今回の旅の目的のひとつJCTIC 日本語学校教師や生徒達の授業参観や交流交歓会は、関係者や参加した女性会員のご努力やご尽力によって予想以上の親善と激励の効果を与えたのではないかと思われた。

また、異国の地で長年にわたりボランティア活動を継続しておられる現在3人の日本人の方には敬服の一語につける感じだった。

佐竹勝年 (北海道苫小牧市)

ゴルフ良し、天気良し、仲間良しのとても楽しい旅でした。マレーシア旅行を、ワールドステイクラブの皆様とご一緒に旅行ができました。マレーシア博物館では、1920年代の貴重な生活様式を知ることができましたし、その後の植物園ではいろいろの花の観察をし、ガイドさんから詳しい説明を聞きました。「揺れる吊り橋」をこわごわと渡りました。

今回の旅行の目的であった日本語学校を見学し、先生達の熱意に感動いたしました。ますます日本語学校の活躍を期待いたしております。

佐藤裕子 (東京都目黒区)

旅を終えていろいろな思いが飛び交っています。交流の現場を、見せていただきました。知人が飴また飴で教えていました。生徒さんは、学生から社会人と層は広く、真面目で素直そうでした。最終日に、先生方や学生さんたちとの交流パーティーが開かれ、生徒さん達が次から次へと現れる、その数の多さに驚かされました。島田さん、國分さんのもとカレー、太巻き、巻き寿司と手作りをし、現地の先生のお鍋いっぱいのおでん、お好み焼き。また、日本文化のお茶のお点前、浴衣の着付け、日本からのお土産などなど、素晴らしい盛り上がりでした。先生方はじめ、皆の努力の成果そのものだと感心しました。

観光もベテランガイドの案内で楽しかった。キナバル公園は、植物図鑑ができそうなほど豊富な種類。湿気たっぷりの鬱蒼とした空間には、身をひきしめられました。私は、クリアスリバーサファリと蛍ウオッチのツアーに参加、川下りの兩岸のテングザルにはずいぶんもてあそばれ、やっとキャッチした一枚の写真、夜を待ち一足早い蛍のクリスマスツリーにもまた満足。

最後の最後、私のドジが出て、大変ご迷惑をかけました。ごめんなさい。みなさま、ほんとうにお世話になりました。楽しい旅ありがとうございました。

笹野 實 (東京都調布市)

マレーシアは、南シナ海を挟んでマレー半島とボルネオ島の東西に跨っている。マレーシア人、中国人、インド人の複合民族国家で、宗教を軸に国民気質も多様性に富むといわれる。村上リーダーのもと 13 名が訪れたのは、東地区のコタキナバルです。標高 4,095m のキナバル山を仰ぐ国際色豊かな街です。

市内観光やキナバル国立公園ハイクを楽しんだ一週間の日程の最終日、13 名は同地在住 20 余年のミセス岡村先生の日本語生徒さんとの交流会を催しました。コタキナバル市中心部に位置するコンドミニウムでの二部屋にまたがる会場には、若い女性を中心に 40 名を超える先生と生徒が集まる盛況でした。

日本語ボランティア担当の会員女性たちが用意した巻きずしなどの御馳走、会員寄付の日本から持参した浴衣を着付け、両国の愛唱歌合唱など地に足の着いた国際交流でした。私も浴衣姿のマレーシア美人に囲まれて、年甲斐もなく興奮してしまいました。

20 年にわたる WSC 諸先輩の地道な奉仕に、あらためて感謝した次第です。

島田貢代 (埼玉県さいたま市)

ボートで、樹上テングザルとホタルウオッチングなど、マングローブの川をくだりながら、川沿いの森に潜む動物たちを探すジャングルクルーズです。私たちは、いくつかのテングザルの家族と木に張り付いたトカゲに遭遇しているうちに日が沈み、素晴らしいサンセットを後にしてボートを降りました。

夕食後、再びボートに乗り暗闇の中の川を勢いよく進むと、川の両サイドにホタルが好むという木にたくさんのホタルが群がり、クリスマスツリーのようにひかり輝き、また天空の星の輝きとのコンビネーションも見ることができたのはラッキーでした。

コタキナバル写真あれこれ



JCTIC 岡村あや先生へ訪問証を贈呈
マリーナコートにて



元気深刺ガイドさん案内板前で諸注意・・・
キナバル植物園にて



かわいいランを探す葉影にもひっそりと
キナバル植物園にて



でかい！ダンゴムシ
しっかり閉じている
キナバル植物園にて



JCTIC との交流会
浴衣姿
マリーナコートにて